



学校だより

令和4年度 第5号
令和4年8月29日発

生きているのですから -集会で子供たちに話したこと-

校長

今日の集会で子供たちに伝えたかったのは、

「今の自分たちがあるのは、曾祖父母、祖父母そして父母が命をつないでくれたから。だからこそ、思い切り生きてほしい」

ということです。

8月15日は「終戦の日」。1945年のこの日、15年間続いた「太平洋戦争」が終わりました。今から77年前、彼らの曾祖父母が子供だった頃です。

千葉市も、1945年の6月10日と7月7日に空襲を受けました。6月10日は飛行機工場などが狙われて390人が死傷し、7月7日は市街地や住宅地が標的となり1,204人の方々が死傷して、市内の70%は焼け野原になってしまったそうです。^{※1}

私の母は当時小学校3年生で、7月7日の空襲を経験しています。その時に私の祖父母が母を守ってくれなかったら、私は今こうして皆さんと出会ってはいません。

三小の子供たちも私と同じです。彼らもまた、生き延びて命をつないでくれた人たちのおかげで生きているのです。だからこそ、子供たちには思いっきり生きてほしい、明るく生きてほしい、人生を楽しんでほしいのです。

新型コロナウイルスもまだまだ収まりませんし、他にも心配なことや悩んでいることがあるかもしれません。それでも、今日からまた一緒に明るく過ごしたいのです。失敗やうまくいかないことがあったら、力を合わせて解決していきたいのです。

生きているのですから。

ウクライナでの武力衝突が長期化し日本に1,708人、千葉県には72人の方が身を寄せています。(8/21現在、法務省データ)この状況下を生き抜き、ウクライナの子供たちが無事に生活し成長して、三小の子供たちと手を携え、次世代の平和な社会の担い手になることを願ってやみません。



1946年千葉中央駅周辺
千葉市市政100周年記念誌

※1 (千葉戦災復興誌 建設省計画局区画整理課/監修 千葉県土木部計画課 1960.4)